

遠隔教育で勉強も治療も前向きに

絶対に入りたかった生活産業系の学科に入学し、やる気に満ちて高校生活がスタートしました。そんな中、1年生の後期中間考査前に病気が見つかり、入院することになりました。最初に「3年間で卒業できない、留年してしまう。」と考え、落ち込んでしまいました。

しかし、長期入院高校生に対する遠隔教育により、出席や単位取得が認められると聞き、治療と学習両方に一生懸命取り組みました。

入院中、病室に学習道具のほか、ミシン、アイロンなど作品製作に必要な道具の持ち込みも許可してもらえ、個室の病室はまるで実習室や自分の家のように使うことができました。治療がつらいときもありました。それ以外の時間は本当に部屋で自由にやりたいことができたと思います。病院の体制も協力的で、医師や看護師と学校のことをたくさん話せました。

入院中の夏休み、服のデザインコンテストに応募し、デザイン画の段階で合格、実際に作品製作をすることになりました。毎日のように、作品を持って学校と病院を往復した家族、遠隔で一生懸命指導して下さった先生、コロナ関係で病院の面会が制限される中でも事情を理解し家族の訪問を認めてくれた病院に本当に感謝しています。

入院中も遠隔教育で学校にいるような生活ができました。授業中や休み時間に友人と話せたりしたことは、治療にも効果があったと思います。退院が決まった時、クラスのみんながビデオメッセージを送ってくれました。

退院後は、修学旅行などの学校行事にも参加でき、楽しい思い出もたくさんできて、3年間で卒業できました。

今は、ずっと就いてみたかったアパレル関係の販売の仕事をしています。電車での通勤も、接客をする仕事も、とても楽しいです。

もしも、同じように病気で長期入院をすることになった高校生の方がいたら、病院や学校はしっかりサポートしてくれるので、明るく、前向きに向かってほしいです。